



平成25年 4月号
国民生活産業・消費者団体連合会

「生団連ニュースレター」は、国民の生活・生命を守るという使命を追求する生団連の取り組みに関する最新情報を、日頃ご支援いただいている皆様にお伝えしています。

■第1回、第2回『食品廃棄対策委員会』を開催

生活者視点から食品廃棄問題への対策を推進するべく、生団連『食品廃棄委員会』が発足、2月6日に大手町のJAビル会議室にて第1回委員会が開催されました。消費者庁政策企画専門官の野村様より食品廃棄の現状と課題についてお話を伺い、委員会メンバーで認識共有ならびに課題について意見交換を行いました。第1回委員会で行われた議論を踏まえて委員会後に委員へのアンケートを実施したところ、検討課題は以下の4テーマ、「消費者への周知・啓発」、「期限表示の在り方」、「食品廃棄物の活用」、「取引に関する課題」に絞り込まれました。

3月27日には第2回委員会が開催され、検討課題の絞り込み

と取り組み案について議論が行われました。上記4つの検討課題の中から、委員会の趣旨である「生活者視点」に重点を置き、まずは「消費者への周知・啓発」に重きを置いて検討を進めることといたしました。また、具体的な周知・啓発方法を策定するため、まず消費者および家庭へのアンケート調査、モニター調査を実施し、食に関する意識と食品廃棄に関する実態を把握してまいります。

今後、具体的調査内容について十分に精査し、調査・分析を実施、食品廃棄削減へ効果的な周知・啓発活動を行うとともに、新たな課題等についても柔軟に取り組みを進めてまいります。

■清水会長が阿南消費者庁長官と対談 ～国民と消費者生活の未来に向けて～

2月28日、生団連の清水会長は、昨年8月に消費者庁長官に就任された阿南久長官と対談を実施、我が国の向き合うべき消費者問題とその解決に向けての意見交換を行いました。阿南長官が以前生団連の副会長をつとめていたこともあって、対談は終始和やかな雰囲気が進みました。対談では、消費者庁・生団連ともに取り組んでいる食品廃棄の問題、いつ起こるかもしれない大震災に対する備え推進の問題、将来および現時点でも問題が浮上している超高齢化社会における諸問題について、1時間

ほど意見を交わしました。行政・事業者・消費者の各視点に造詣の深いお2人による、闊達かつ有意義な対談となりました。生団連は「国民の生活・生命を守る」という使命のもと、志を共有する消費者庁とも協力・連携をしながら、使命の実現に邁進してまいります。



■事務局がNPO『やさしくなろうよ』訪問、福祉バイオトイレカーを見学

3月1日、神奈川県海老名市にあるNPO『やさしくなろうよ』を事務局で訪問し、同団体が運営している『福祉バイオトイレカー』を見学し、お話を伺いました。福祉バイオトイレカーとは、車イスでも利用できるトイレを搭載したトラックで、障害者が参加するイベント等に派遣され、障害者や高齢者の行動範囲拡大に役立



っています。また、東日本大震災のときにも宮城県に派遣され、健常者も含めてトイレ不足に悩む被災者のためにフル稼働し、現地のトイレ事情の改善に貢献されたそうです。福祉バイオトイレカーを開発した優成サービス(株)、八木正志代表取締役は「障害者の方にとって利用できるトイレが少ないことが、外出を妨げる大きな要因となっている。トイレカーが普及して、日本全国の障害者の方がイベントなどにもっと安心して参加してもらえるようにしたい」と話されていました。

<平成25年度 理事会・定時総会のご案内>

日程：平成25年6月10日(月) 会場：ホテルニューオータニ(千代田区紀尾井町4-1)
時間(予定)：15:00～ 理事会・定時総会 / 16:00～ 記念講演会 / 17:30～ 記念パーティ

○ 生団連の活動の詳細につきましては、年4回の『生団連会報』および生団連のホームページに掲載されています。

生団連は清水信次会長(株)ライフコーポレーション会長)の発案で設立、「国民の生活・生命を守る」ことを使命とする団体です。会員は500超の企業、業界団体、消費者団体から構成され、日本の直面する諸課題解決に向け生活者視点で取り組んでいます。

【お問合せ先】

国民生活産業・消費者団体連合会 清水(栄)／山根 ☎:03-3662-5240 ✉:jimu@seidanren.jp
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-6-2 小津本館ビル7階 URL: <http://www.seidanren.jp/>